

立教大学学術推進特別重点資金(立教SFR)
大学院学生研究
2020年度研究成果報告書

研究科名	立教大学大学院	法学研究科	法学政治学専攻
研究代表者 (2021年3月現在 のものを記入)	在籍課程・学年・学生番号		氏名
	<input type="checkbox"/> 博士前期課程 年 <input checked="" type="checkbox"/> 博士後期課程 1年 (学生番号: 20TD001D)		大塚 淳 印
指導教員	所属部局・職		氏名
	法学部 教授		松田 宏一郎 印
自然・人文・社会の別	自然 ・ 人文 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 社会	個人・共同の別	<input checked="" type="checkbox"/> 個人 ・ 共同 名
研究課題	中江兆民の進化論・唯物論・唯心論思想－19世紀欧州政治・道徳思想との比較において		
研究組織 (研究代表者 ・共同研究者) ※2021年3月現在 のものを記入	在籍研究科・専攻・課程・学年		氏名
	法学研究科法学政治学専攻 博士後期課程1年		大塚 淳
研究期間	2020 年度		
研究経費 (1円単位)	(支出金額) 200,000円 / (採択金額) 200,000円		

研究の概要 (200～300字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

中江兆民の思想を以下の作業を行うことで総合的に把握する。

- ① 『政理叢談』の原典、仏学塾のテキスト(いずれも仏文)との比較。
- ② 19世紀フランスの哲学、社会学、心理学、道徳教育論の諸言説についての原典確認。
- ③ 19世紀後半のフランス思想において、唯心論哲学と唯物論哲学、進化論、カントの受容と解釈についての研究(二と同様の方法で比較)。
- ④ 兆民の美学及び歴史認識について分析。
- ⑤ 漢文・伝統思想からの兆民への影響関係を論証。

2020年度はこのうち、主として①～③を行い、政治思想学会での自由論題発表内定を勝ち取り、且つ、比較の視座としてアルフレッド・フイエについての研究を院生紀要誌に発表した。

キーワード (研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。)

[19世紀日欧比較思想史] [社会進化論] [勃興期の心理学・社会学]

研究成果の概要 (図・グラフ等は使用しないこと。)**【作業内容とその成果】**

- ① 『政理叢談』の原典、仏学塾のテキスト(仏文)との比較。
 ・『政理叢談』については、立教大学図書館所蔵のマイクロフィルムを全て印刷・ファイル化した。
 また、その原典については、井田進也『中江兆民のフランス』の研究により、全てを掌握。
 →その結果、兆民の諸著作への、フランス及び欧州諸思想の影響が具体的な引用箇所で見視化できるようになった。
- ② 19世紀フランスの哲学、社会学、心理学、道徳教育論の諸言説についての原典確認。
 ・①とも共通するが、特に、アルフレッド・フィエ、アルフレッド・エスピナスの諸著書を読み込んだ。
 →その結果、汎心論、集合意識、国民の道徳教育というキーワードが、中江兆民の思想を理解するのに重要であることが再認識出来た。
- ③ 19世紀後半のフランス思想において、唯心論哲学と唯物論哲学、進化論、カントの受容と解釈についての研究(二と同様の方法で比較)。
 ・②とも共通するが、特にアルフレッド・フィエの『観念力の進化論』を精読し、スペンサー、ダーウィンらの進化論と比較し、その特徴を把握した。
 →その結果を「研究ノート」として、立教大学大学院法学研究会『法学研究』51号に発表・刊行した(後述)。
 論文名「忘れられた思想家アルフレッド・フィエ(1) —観念力の哲学」
- ⑤ 漢文・伝統思想からの兆民への影響関係を論証。
 ・また、2020年度の具体的な成果として研究発表には至らなかったが、中江兆民への江戸期の儒学思想からの影響を研究する為、松田先生の御指導の元、佐藤一斎、安井息軒、帆足万里、荻生徂徠等の徳川期儒学者のテキストを精読した。
 →2021年度以降の研究の布石とする。

【具体的な研究発表の過程と成果】

2020年度は、研究発表において二つの成果があった。

第一に、政治思想学会研究大会「自由論題」報告への応募～採択である。

第二に、上記立教大学大学院法学研究会『法学研究』への論文(研究ノート)掲載発表である。

< 1 > 政治思想学会研究大会「自由論題」報告への応募～採択**1) 概要**

2021年5月22-23日に予定されている政治思想学会・第28回研究大会の自由論題にて研究発表を行うべく、提案書を作成し応募。報告者の一人として採択された。

2) 提案書の概要

・報告の意図、趣旨説明を2000字以内にまとめて提出。

・題目：「三酔人の「進化論」—中江兆民と一九世紀の「進化論」思想」

・内容(提案書の「問題の所在」より抜粋)

今迄、『三酔人経綸問答』論といえば、「洋学紳士」、「豪傑の士」、「南海先生」という三「酔人」の言葉を当時の時局と併せて解説するものが多かった。一方、中江兆民の哲学的な側面については、一部の先行研究があるものの、『三酔人経綸問答』についての言及は少ない。本論稿では、今まで先行研究では論じられることが少なかった『三酔人経綸問答』の哲学に着目する。兆民は、仏学塾の翻訳出版活動を通じ一八～一九世紀の欧州諸思想を参照しつつ、三人の「酔人」を造型した。本論稿では「洋学紳士」、「豪傑の士」、「南海先生」という「酔人」がどのように造型されたのか、それらの「進化論的」表現は何が参照されたのか、それぞれは互いにどのような思想的緊張を有していたのか、考察する。

研究成果の概要 (つづき)

< 2 > 立教大学大学院法学研究会『法学研究』51号への論文(研究ノート)掲載

1) 『法学研究』概要

立教大学大学院法学研究会では、年に1～2回のペースで院生紀要誌『法学研究』を作成している。同紀要誌は、国立国会図書館、東京都立中央図書館、最高裁判所図書館、有斐閣、日本評論社、第一法規株式会社、及び全国100以上の大学の法学部(法学研究科)または図書館に郵送されるものである。掲載に当たっては、指導教員の査閲・確認を必須とする。今般、2020年度の第51号に以下の「研究ノート」を掲載した。

2) 「研究ノート」概要

- ・ 題名: 「忘れられた思想家アルフレッド・フイエ (1) — 観念力の哲学」
- ・ 字数とページ数: 全 25,747 字、34p。
- ・ 内容:

中江兆民に少なからぬ影響を与えたフランスの思想家アルフレッド・フイエ(1838-1912)について取り上げる。フイエは戦前の一時期こそ、中江兆民や九鬼周三などの哲学者や、矢田部達郎などの心理学者に取り上げられたが、現在はフランス本国を含めてあたかも忘れられた思想家である。しかし、2019年にフランスで著書が再版されて、そのリバイバルが行われつつある。コレージュ・ド・フランスの法哲学・労働法の教授であるアラン・シュピオは、フイエの「社会正義」の思想が、ILOの創設や、第二次世界大戦後の世界諸国の憲法に体现されている、と指摘した。本研究ノートでは、この「忘れられた」思想家アルフレッド・フイエの紹介を連載形式で行なっていく。

第一回目は、フイエの略史、文献情報と共に、その思想の根幹となる「観念力」« *idées-forces* »について取り上げる。

フイエは、苦学の末にフランスの高等師範学校の助教授(後に教授)になったが、健康上の理由から若くして退職、その後は田舎に隠遁しながらも精力的に著書を刊行し続けた。その最初期は哲学的な著作が主であったが、隠遁生活の中で書き上げた著作は、広く法律学、政治学、社会学、道德教育の分野に跨るものであった。

今回は主として『観念力の進化論』*L'Évolutionnisme des idées-forces* の内容紹介をまずは行った。フイエは同書で、ハーバート・スペンサーの思想を「機械論的進化論」として批判した。即ち、スペンサーは生物を「反射」というものに動かされる自動人形として説明しようというものである。それに対してフイエは、「欲求」、「意志」、「観念」という精神的な作用(「力」)が物質的な現実をも改変して行くと論じた。フイエは人間を含む生物一般の細胞レベルに、精神的なもの(たとえ、どんな原初形態であったとしても)の存在を想定する。厳しい環境の中で存亡をかけて闘争しつつ、不快・苦痛を感じている全ての細胞は、その不快・苦痛から逃れようと努力する。快や歓喜を感じている場合は逆に、その状態にとどまろうと刺激する。これこそが、「欲求のプロセス」であり、「意志」、「観念」の起源である。このような「観念力」は、生物の進化そのものをも加速させるものである、とフイエは論じた。

本研究ノートでは、このような一見風変わりなフイエの思想に対して、幾つかの問題提起を行った。まず、功利主義的な価値観「最大多数の最大幸福」を有していたスペンサーを「機械論的進化論」と批判したことが妥当であったのか。次に、フイエの、ダーウィンの生存競争を肯定しているように見える「観念力の進化論」は、社会正義の思想と矛盾しないか。第三に、その根幹となる原初的な細胞レベルに「欲求」、「意志」、「観念」(その萌芽)を見出す思想について。このような思想は「汎心論」(刑法学者の増田豊の指摘)と呼ばれるべきものであることを論じた上で、個々の細胞が個別に「欲求」や「意志」を有するのであれば、どのように(個々の細胞によって構成される)個々の身体は全体としてまとまるのか。フイエのシステム論的な思想(個と全体との関係)がまだよく見出せないことを論じた。これらの問題提起については次号以降の連載で解明して行きたい。但し、「汎心論」については、フイエの同時代の黎明期の社会学者であるアルフレッド・エスピナスにも類似の思想があり、ホーリスティックな理論構成から「集合意識」、社会的な« *morale* »(形容詞« *moral(e)* »)という問題意識にも展開して行ったことを示唆しつつ、第一回目の論稿を終えた。

※この(様式2)に記入の成果の公表を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差控え期間等を記入した調書(A4縦型横書き1枚・自由様式)を添付すること。

研究発表 (研究によって得られた研究成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。なお、成果発表を確認できる資料を合わせて提出してください。)

- ① 雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ② 図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③ シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④ その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

① 雑誌論文 :

- ・ 著者名 : 大塚 淳
- ・ 論文表題 : 研究ノート「忘れられた思想家アルフレッド・フイエ (1) — 観念力の哲学」
- ・ 雑誌名、巻号 : 立教大学大学院法学研究会『法学研究』51号
- ・ 発行年月 : 2021年2月
- ・ ページ : p.1-34。

④ 学会発表 :

- ・ 概要 : 2021年5月22-23日に予定されている政治思想学会・第28回研究大会の自由論題に、発表者の一人として登壇することが決定した。
- ・ 題目 : 「「三酔人」の「進化論」— 中江兆民と一九世紀の「進化論」思想」
- ・ 経緯 :
 - 2020年9月 : 政治思想学会の「自由論題」に応募 (約2000字の提案書を送付)。
 - 2020年11月 : 採択通知を受領。
 - 2021年1月 : 「政治思想学会会報」に上記研究大会のプログラムが記載。